

すべての人々にとってより安全、持続可能、接続可能な未来のデジタル化に向けて



ITU 事務総局長

Houlin Zhao

親愛なる日本の友人の皆様

この1年は世界的に大流行したCOVID-19との闘いに明け暮れる異例な年でした。また、COVID-19は数えきれないほどの犠牲者を生み、世界の社会経済に深刻な打撃を与えました。

そんな2020年は情報通信技術 (ICT) が注目を集める年でもありました。

この数か月の間に開催された第75回国連総会、ICTによるG20会合、経済開発機構 (OECD) 財務大臣、保健大臣合同会議及び閣僚会議においてICTが重要な議題として取り上げられ討議されたのを、私は直接目にしました。

COVID-19がもたらす新しい環境下で、社会、経済を支えるために至るところでICTやブロードバンド接続が極めて重要であることを実証しました。

コロナ禍で不可欠となるICTの技術やサービスの恩恵を受けたいのに、36億に上る世界の人々がアクセスできないという不公平な状況が明らかになり、我々はデジタル・ディバイドが厳然と存在する現実を改めて認識させられました。

国連が提唱する持続可能な開発目標 (SDGs) の達成やCOVID-19など世界の緊急な難問を解決する上で、ICTはこれまで以上に重要な鍵となっています。もちろんこの取組みに日本は顕著な役割を担っています。

ITUが立ち上げた新たな途上国支援プロジェクト「Connect2 Recover」について、ITUは日本の総務省にその支援をお願いしています。このプロジェクトは、新型コロナウイルスで甚大な打撃を受けた国々で、ブロードバンドへのアクセスが最も低いアフリカの国々を当面の対象に、廉価で信頼性が高いブロードバンドの普及を援助し、COVID-19から立ち直るよう支援するものです。

日本は140年以上の間、ITUの加盟国であり、1959年からITUの理事国でもあります。日本は無線周波スペクトラムの利用、衛星軌道の割当てから国際標準の策定まで幅広くITUへ

積極的な活動をしており、次世代のテクノロジーに向け開発途上国のインフラ整備や政策作りの援助へも大きな貢献をしております。私どもITUはその日本の尽力に大変感謝しています。

今年、私たちはブロードバンド接続の普及に努めるだけでなく、5G、クラウドコンピューティング、AI、等々の新しいテクノロジーを用いて、いろいろなサービスの向上を進めていく必要があると思っています。

一方、日本は長年にわたりICT革新の世界の源と目され、ITUが重要かつ最先端の分野とみなす無線周波数の割当てやAIや5Gのリーダーです。その日本でいくつかの通信事業者が2020年に5Gサービスを開始したことを知り喜んでおります。

5Gサービスは多様かつ将来有望な分野で、新しいアプリを生むことと期待されています。いくつか例を挙げれば、自動走行車、遠隔医療、スマートシティ、協働ロボットなどの分野です。

COVID-19禍においても健康、教育、金融、運輸などの分野で5Gの革新的な応用が見られました。このような危機的かつ困難な時期において、日本は後を追う他の国々の模範として映っています。

ITUは、ICT発展の役割を担い、ITUへの多大なる財務の支援を続ける日本政府や、ITUに有能な専門家を派遣する日本のITUのセクターメンバー並びにアカデミーメンバーの各位に深く感謝いたします。

本年夏は、東京で夏季オリンピックが開催予定です。オリンピックは日本のICTの研究開発力を世界に示し、世界に将来の大きな希望を与える絶好な機会となるであろうと私は確信しています。

さらに、ITUは本年初めて、アフリカ大陸 (エチオピアのアディスアベバ) で世界電気通信開発会議を開催予定です。この会議はSDGsを支援し、国際社会をデジタルトランスフォーメーションへと向ける機会になるであろうと考えています。

SDGsの達成目標の年まであと10年を残すのみです。前例を見ない危機の中、ICTをてこに開発を進めることがこれまで以上に重要になりました。

すべての人々にとってより安全で持続可能な未来のデジタル化の推進に向けて、ITUに係るすべての日本のメンバーや友人の方々がITUと手を取り、この課題に取り組むよう願っています。

本年も皆様にとって健康で、平和でまた幸せな年となりますよう祈っております。